

福島県PTA連合会会報  
第46号\_H10.07.15

# PTA ふくしま

第46号  
福島県PTA連合会  
編集/調査広報委員会  
印刷/泉印刷所

県P連スローガン 「語り合い 分かり合い 信頼関係を」

入学の  
よる  
こと  
び



↑福島大学教育学部附属小学校



←福島第二中学校

# 会長就任にあたり

福島県PTA連合会会長 早川 敬 介



全国各地より、「いじめ」による事件や中・高校生のナイフによる残虐な事件など数多く報道されるなか、県内においてもナイフによる事件が発生したことは大変憂慮すべき事態であります。このような事件の背景には、これまでの日本が戦後五十年にわたり経済を最優先にし続けてきたことと、子供の教育は教育の専門機関としての学校にすべてを任せしてしまい、本来家庭や地域社会がすべき教育を怠ってきたことに起因するのではないかと思えてなりません。親である私達は、社会が悪いからと他者に責任転嫁するのではなく、親自身にもその責任の一端があることを強く認識するとともに、未成年の子供の親権をもつ保護者と

して、家庭の教育力向上に本気で取り組む必要があると思います。今日ほど親が「本気で子供に向かい合い、子育てすること」を求められる時代はなかったのではないのでしょうか。私達は、昨年の福島県PTA研究大会の大会宣言において、「家庭教育の重要性を認識し、家庭における教育力の向上に努めるとともに、生涯学習の立場に立って、自らの研修を行い、人格を高めるようなPTA活動に務める」ことを決議いたしました。このことはPTA本来の目的の一つである会員研修を、親としての学習、即ち「親学」を基調とした研修活動に今こそ重点を置くべき時期であることの決意であります。様々な職業の方々と共にPTAの諸活動に参画・参加することで、親自身の視野を広げ、親としての自覚を強くもち、感性を磨き、親としての器を大きくしていくことが必要です。又、明るい温かい家庭を営む中で、将来の社会人としての子供に対し、人としての生き

方や物の見方・躰(しつけ)・倫理観などを教えていくことも必要です。そのためにはPTAの研修を会員一人一人に、やがては子供達のためになることを親自ら研修する機会として認識する必要があります。また学校週五日制完全実施が、当初より一年早まり、二〇〇二年に予定され、学校だけでなく家庭や地域社会をも教育の場とし、子供達が生活の中で豊かな感性や社会性を養うように努めることが求められておりますが、PTAは、家庭・学校・地域の三者を結ぶ実践の組織として、未来の子供達のための環境づくりと地域全体の教育力向上のためにも行動していかなくてはならないと思えます。

今後、会員の皆様方や関係機関等のご意見やご指導をいただきながら、私達のPTAの組織そのものを、その時代の求める社会変化に柔軟に対応のできる組織にしていくことも必要であると考えております。

## 平成10年度 福島県PTA連合会役員一覧

- 会長 早川 敬介 (郡山市P連・会長)
- 副会長 網代 智盟 (福島市P連・会長)
- 理事 (役員を除く)
  - 渡邊 眞一 (南達P連・会長)
  - 山野 政幸 (石川郡P連・会長)
  - 鈴木 道夫 (東白川郡P連・会長)
  - 大原 充裕 (北会津地区P連・会長)
  - 大関 義一 (耶麻地区P連・会長)
  - 樋口 栄一 (両沼地区P連・会長)
  - 佐藤 邦夫 (大沼郡P連・会長)
  - 和田 俊一 (双葉郡P連・会長)
  - 熊田 晴彦 (県北ブロック代表)
  - 鳴原 誠次 (県中ブロック代表)
  - 穂積 友大 (県南ブロック代表)
  - 高久 庄三 (会津ブロック代表)
  - 横山 恒廣 (南会津ブロック代表)
  - 松本 久芳 (相双ブロック代表)
- 顧問
  - 山岸 清 (前会長)
  - 芳賀 裕 (元会長)
  - 櫻井 和朋 (元会長)
  - 佐久間 一枝 (いわき市P連・母親委員長)
  - 坂上 よし子 (一箕中・副会長)
  - 佐藤 素子 (郡山市P連・副会長)
  - 栗原 昭子 (福島市P連・母親委員長)
  - 栗原 昭子 (母親代表)
  - 菊地 洋 (岩瀬地区P連・会長)
  - 春日 和光 (伊達地区P連・会長)
  - 小森 良一 (いわき市P連・会長)
  - 阿部 保憲 (南会津郡P連・会長)
  - 齋藤 泰一 (安達地方P連・会長)
  - 小林 正守 (県中学校長会長)
  - 佐藤 幹夫 (県小学校長会長)
  - 武田 一奉 (相馬地方P連・会長)
  - 箕輪 達也 (会津若松市P連・会長)
  - 鈴木 清次 (西白河郡P連・会長)
  - 鈴木 清次 (西白河郡P連・会長)
- 監事
  - 齋藤 泰一 (安達地方P連・会長)
  - 小藤 正守 (県中学校長会長)
  - 阿部 保憲 (南会津郡P連・会長)
  - 小森 良一 (いわき市P連・会長)
  - 春日 和光 (伊達地区P連・会長)
  - 菊地 洋 (岩瀬地区P連・会長)
  - 栗原 昭子 (福島市P連・母親委員長)
  - 栗原 昭子 (母親代表)
  - 栗原 昭子 (郡山市P連・副会長)
  - 坂上 よし子 (一箕中・副会長)
  - 佐久間 一枝 (いわき市P連・母親委員長)
  - 櫻井 和朋 (元会長)
  - 芳賀 裕 (元会長)
  - 山岸 清 (前会長)
- 日本P評議員
  - 春日 和光 (伊達地区P連・会長)
  - 菊地 洋 (岩瀬地区P連・会長)
  - 栗原 昭子 (福島市P連・母親委員長)
  - 栗原 昭子 (母親代表)
  - 栗原 昭子 (郡山市P連・副会長)
  - 坂上 よし子 (一箕中・副会長)
  - 佐久間 一枝 (いわき市P連・母親委員長)
  - 櫻井 和朋 (元会長)
  - 芳賀 裕 (元会長)
  - 山岸 清 (前会長)

# 晴れの表彰校

第三十三回小中学校新聞コンクールは、平成十年四月十日福島民友新聞社で、福島県PTA連合会、福島民友新聞社主催のもとで審査

が行われた。応募作品は、PTA広報紙八十四校(小六十八、中十六)学校新聞十八校(小七、中十一)が寄せられ、以下の二十三校が入選した。

## 【PTA会報の部】

### ◆最優秀賞

- 「すぎのめ」(福島・杉妻小P)
- 「西 陵」(須賀川・西袋一小P)

### ◆優秀賞

- 「すずかけ」(榊葉北小P)
- 「たいせい」(郡山・大成小P)
- 「きくた」(いわき・菊田小P)
- 「桃 里」(伊達中P)
- 「睦(むつみ)」(若松二中P)

### ◆入 選

- 「ひらの」(平野小P)
- 「和多里」(渡利小P)
- 「みなみ風」(福島・南台小P)
- 「あゆみ」(上保原小P)
- 「おやまだ」(小山田小P)
- 「行 健」(行健小P)
- 「薫だより」(薫小P)
- 「連 峰」(白河一小P)
- 「広報日新」(日新小P)
- 「わごう」(大野小P)

## 【学校・学級新聞の部】

### ◆最優秀賞

- 「稲田だより」(須賀川・稲田小)

### ◆優秀賞

- 「小野田っ子」(小野田小)
- 「掛 け 橋」(小野中・一学年通信)

### ◆入 選

- 「たけのこ」(川俣南・一学年通信)
- 「坂下一中タイムス」(坂下一中)
- 「はじめの一步」(渡利中・学級新聞)

## 「第三十四回小中学校新聞コンクール」のお知らせ

- 募集時期……平成十一年三月(会報四十七号で募集案内の予定)
- 募集方法……県内小中学校で発行する新聞または、PTAで発行する新聞で、平成十年度に発行したもの(学年・学級新聞も可)

## 榊葉北小「すずかけ」

年間十回発行を目標にしてすでに六年目、企画は全員で決めますが、どのような素材も調理の仕方次第で楽しいものになります。

毎年毎号継続している企画は、専従担当者が半年分程を見通して写真収集や原稿依頼をします。特集記事はテーマを決定後、関係委員が写真を撮影し、取材の上、原稿を書きます。

八年度よりパソコンを導入して版下まで関係委員の段階で編集し、印刷だけを外部に依頼します。この方法で、年間、A四版六十ページを四十五万円ですべて仕上げます。これにはスポンサーの協賛なしには不可能ですが、協力を得ながらなんとか六年目に入りました。当初は広告収入を見

込む方法を先生方に反対されましたが、当時のPTA会長の応援で継続することができました。面白い紙面を作ると、自分にも作らせてと、いろいろな人材が集まってきました。

毎年三月には、卒業生全員の親子ペア写真(校内で撮影)、保護者の一言、そして卒業式当日の写真を載せ、卒業特集号として発行します。新聞店の協力を得て、これを学区全戸に新聞折り込みで配布しています。

年度最後は、三日で作る「先生の離任にあたって」の速報「すずかけ」の作成です。三月三十一日の離任式に配付します。

後継者も別に心配なし、先生方や町内の企業、好きで集まった委員達



の榊葉北小学校への情熱が支えになっています。(文化委員会委員長 大和田清司)

## 若松二中「睦」



今回の受賞は、広報委員会として大きな喜びであり、励みとなっております。

昨年度は、経験者が少なく心細い出発でしたが、作成にあたって班構成をし、紙面の分担を決めました。「睦」五十五号では、中体連で活躍する生徒達の姿をとらえたいと、慣れないカメラを手にシャッターチャンス待ち、多くの会場を駆け廻りました。割付け作業が初めてと言う人は、だいぶ悩まれたようです。

にしたらどうかとの意見が出されました。

執行委員会での承認を得て、A四版での五十六、五十七号の発行が実現したわけです。前回の反省をふまえて全員の協力で作成したものです。コンクールへの出品に際しては、批評をしていただき次へのステップになればという思いでしたが、思いがけない受賞に、大変うれしい気持ちでおります。

五十五号発行後、紙面が小さい、文字が小さく読みにくい、全体としてのバランスがとれていない、など多くの反省がありました。また二学期は、創立五十周年記念式典や校舎落成式典、三年に一度の飛翔祭を控えており、内容を充実させるために、A四版に変え、年二回発行から三回

今年度も、広報活動が始まり、まもなく「睦」五十八号が発行されますが、気負うことなく、さらに親しまれる広報紙づくりをめざしたいと思います。

(広報委員長 金田節子)

### 県PTA今年度の主な行事

- 6月9日(火) 評議員会
- 6月26日(金) 小中別懇談会  
同 常置委員会・理事会
- 7月8日(水) 役員総務合同会議
- ※8月21～22日 日P神戸大会
- 8月28日(金) 母親代表者懇談会
- ※9月11日～12日 東北P山形大会
- 母親リーダーセミナー
- 9月17日(木) 県中南(須賀川)
- 18日(金) 浜(檜葉町)
- 22日(火) 県北(福島市)
- 29日(火) 会津(会津若松市)
- 10月21日(水)～22日(木) 県P研究大会喜多方・塩川大会
- ☆事故防止 習字・ポスター募集  
12月～1月
- 2月12日(金) 役員総務合同会議
- ☆PTA広報紙・学校新聞コンクール  
作品募集 2月～3月25日

## 日中友好「少年少女の翼」に参加して

飯野中 久能 親

日中友好「少年少女の翼」は、友好親善を深め、心豊かな青少年の健全な育成を図ることを目的として実施され、今回は十三回目です。福島県からは飯野中の久能さんと川俣中の角田君が参加しました。

日中友好「少年少女の翼」に参加したことは、私にとって大きな何かを与えてくれ、そして今の自分について考えることができるきっかけとなりました。

初めての海外、中国。がんばって男坂を歩いた万里の長城はとても美しく、はるか山の向こうまで続いていました。故宮も天安門広場も広く、中国のスケールの大きさや歴史の深さに感動しました。

そして、中国の中学生との交流は忘れることのできない思い出です。そこで友達になった人たちは、いつも笑顔で明るく、色々な話しかけてくれました。

この交流は人との出会いのすばらしさを教えてくれました。私にとって最高の思い出です。この経験をこれからの自分の人生に生かしていきたいと思えます。



## 『すずかけ』三年連続入賞!

日P広報紙コンクールにおいて榎葉町立榎葉北小PTA発行の「すずかけ」が、その優秀性を認められ「佳作」に選ばれました。

誠におめでとうございます。今後のさらなるご発展を期待申し上げます。

なお、このコンクールには、直接単Pから日Pへの応募はできません。それは、都道府県単位に出品数が規定されているからです。本県では、県PTA連合会をおとして応募することになっています。

そこで本会としては、広報紙コンクールを実施し、優秀紙(小五点・中三点)を日Pに推薦出品しております。

今年度のコンクールに、多くの単位PTAの応募をお待ちしております。募集要項は十一月に送付いたしますが、出品いただく広報紙は、今年四月から来年三月まで発行した全紙ということになっています。

## 事務局だより



### 東北P天童・東村山大会 県P喜多方・塩川大会 への積極的な参加を

ご案内のとおり、東北PTA研究大会は、隣の山形県において開催されます。

隣県ということで、九十名の参加要請がきておりまして、各郡市P連への参加依頼人数の割当が多くなっております。

なお、来年度は、東北P研究大会が、本県(相馬市)で行われるというところもありますので、多くの会員の皆様の参加をお願いいたします。

また、県PTA研究大会喜多方・塩川大会についても、よろしくお願ひします。

大会実行委員会では、二千二百名の参加を予定しており、一同に会しての全体会運営のため、全体会会場の変更も含めて皆様の多数の参加をお待ちしております。

各郡市Pへの参加要請人数が、例年より多くなっておりますが、

よろしくご協力ください。(単P数×二点五倍で算出、つまり、単純計算ですと一単P二人から三人の参加となります)

### 編集後記

今年度から年三回発行としました。それはできるだけ速く皆さんに情報を知らせたいとの思いからです。

限られた予算での発行のためにページ数を減らしましたが、現段階でお知らせしたい主な事項については、ほぼ載せることができました。

「県PTA要覧」と併せてお読みいただければ幸いです。

一ページは、希望に胸をふくらませ、入学を迎えた児童・生徒の姿を特集してみました。この子どもたちが、今日のこのときの想いを卒業まで持ち続けて欲しいとの願いを込めてです。

### 大好評!『PTAハンドブック』

(社)日本PTA全国協議会唯一の公式ガイドブックができました。

PTAってなに?  
PTAはどんな団体なのか、今日的なテーマから子どもたちの健全育成に必要な基礎知識を紹介。

PTA活動のためのQ&A  
少子化によって負担になったといわれるPTA活動。初めての方でもよくわかる、PTA活動実践マニュアル付。

行事でのあいさつ実例  
PTA活動でのあいさつの実例、ポイント、ノウハウを伝授

普段のPTA活動の疑問にわかりやすくお答えする本です。携帯に便利なサイズ。この機会に是非お買い求め下さい。

B5版・212ページ/定価1,100円(税込)  
編集・発行(社)日本PTA全国協議会

お申し込みは  
所属の地方協議会または「PTAハンドブック」事務局まで  
TEL03-3221-9471/FAX03-3221-9407